

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。本日は、ワクチンの集団接種会場の増設に向けた準備状況等について市長から報告させていただこうと考えておりましたところ、幹事社である静岡新聞さんからも同じ趣旨のご質問をいただいております。本日は先に幹事社質問をいただく形で進めさせていただきたいと思っております。それでは静岡新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。よろしくお願いいたします。新型コロナワクチンの接種についてです。接種に当たる医療従事者の確保が全国的な課題となっています。市長は前回の定例記者会見で、国の要請に応じて7月末までの高齢者接種完了を目指す方針を示されましたが、今後、どのように打ち手を確保していくお考えでしょうか。

◆市長

どうもありがとうございます。それでは今の幹事社質問を受けまして、打ち手の確保、並びにワクチン接種事業を7月末までに完了するという目標に向けて、いくつか課題がありますので、そのことについてご報告させていただきたいというふうに思います。まずスライドの一つ目ですね、ご覧ください。ワクチン接種のスピードアップのための対応策、集団接種会場の増設に向けた準備状況についてお伝えいたします。打ち手の確保、これが最大の課題であります。すでに接種に協力をいただいております総合病院の医療従事者の皆さん、静岡、清水の医師会の開業医の皆さんはもちろん協力をいただいておりますが、さらに看護師協会、県の看護協会を通じて、潜在看護師の情報を持っているということですので、それについても協力を要請しております。さらに静岡、清水の歯科医師会のほうへもご協力をすでに要請しております。市外の医療従事者にも民間活力導入の中で広く呼びかけをしております。本当に打ち手の確保について全力を傾けているという現況であります。

一方、会場の確保に向けても調整は大詰めを迎えております。二つの民間施設を借り上げていく。新たに15から20レーンの接種のラインを増やしていきたいというふうに考えております。このハード、ソフトですね、打ち手人材の確保と接種場所、会場の確保、これを進めて整えた上で、新たな集団接種の会場を来月20日から稼働させていくということを目指しております。

スライド2をお願いします。次に、今後のスケジュールについてももう一度、多少の変更もありますのでお伝えいたします。85歳以上の市民の方々に続きまして、75歳から84歳の市民の皆さん、およそ7万6,000人に上りますけれども、この方々に対して昨日か

ら、5月27日から接種券の発送をスタートしております。来月6月1日ごろまでにはこの市民の皆さんに接種券が届く予定であります。届きましたら、接種を希望される皆さんはコールセンター、もしくはウェブからの予約をお願いいたします。

スライド3をお願いします。すでに85歳以上の市民の皆さんについては今週の月曜日、24日から接種が始まりましたことはご承知の通りであります。試行錯誤しております。26日までに接種券発送済みのおよそ4万2,000人の対象者のうち、57%に当たる2万4,000人の方々からの予約がありました。

そのうち約8,000人の方々すでに1回目の接種を済ませられました。現時点では重篤な副反応を示したという方はいらっしゃいません。

さて、予約の受付状況を見ますと、ここにありますとおり、およそ4割が電話によるコールセンターからの、そして、6割がウェブを通しての予約となっております。27日から新たな接種券を発送させていただく75歳以上の対象者、これが打ち手の確保に続く二つ目の問題ですが、いかに予約をスムーズに完了してもらうかということでもあります。ウェブが6割ということでもありますけれども、高齢者の方々にウェブを通じて予約してくださいというだけでは親切ではないということが分かってきました。そこで、そのところのフォローアップをさせていただきます。まず、現況でありますけれども、このグラフはコールセンターの日ごとの受付状況であります。棒グラフは入電数、電話が入った数、コールセンターに電話をかけていただいた件数で、青はそのうちの到達数、コールセンターに電話がつながった件数です。一方、赤の折れ線は電話での予約件数を表しています。これは各自治体が悪戦苦闘している全国的な問題ではありますが、静岡市のコールセンターでも予約開始当日から数日間は電話をかけてもつながりにくいという苦情が入り、市民の皆さんにはご不便をお掛けしております。ですので、これをきちんと検証して75歳以上の方が始まりますので、その皆さんのご予約についてストレスがたまらないように改善していかなければいけません。同様なことが起きるということを想定して、今、改善の準備をしております。

スライド5をお願いします。とりわけ電話がつながらなかった、じゃあ、ウェブで何とか予約してみようという方々に対して、静岡市としては全力で、公民連携で民間の方々にもお手伝いをいただいてサポートさせていただこうと思っております。「もとよりパソコンやスマートフォンが得意でない」、「ウェブの予約がしづらいよ」という抵抗感のある市民の皆さんが多くいらっしゃいます。そこで、静岡市内の各所にそんな方々のためのウェブ予約支援窓口を設置することに決めました。この支援窓口、明日、5月29日、毎週土曜日と日曜日、JR静岡駅近くのホテルグランヒルズ静岡とJR清水駅近くの清水テルサにこの支援窓口を開設いたします。ここでは市の職員はもちろんのことですが、民間の行政書士会の皆さん、あるいは静岡、清水の看護専門学生の皆さんにも応援していただけることとなっております。さらに来週の月曜日、5月31日から平日にも葵、駿河、清水の各区役所にも市の職員による支援の窓口を設置いたします。

さらに、来てもらうだけではなくてこちらから出前をするとか、出向くということにも取り組んでいこうと市民局の皆さんがいろいろアイデアを出してくれました。

接種券をお持ちの皆さまに、「ワクチン接種予約し隊」、「したい」、というのは隊列の隊ですね。ここに書いてあるかな。この下のほうに書いてあるやつですね。これまだ仮称でありますけれども、「ワクチン接種予約し隊」というものを組織して、職員が出張してウェブ予約の支援をさせていただき取り組みを目下計画中であります。これは従来、市政出前講座というものをしております。市政で、このことに関心があるという10人以上の市民の方々を対象に職員が出前で、「ごみの問題はこうしてください」とかやっているわけですが、その市政出前講座の枠組みを活用して、臨時のメニューとして、この予約支援の申し込みを受け付けさせていただきたいと思っております。

一方、民間の皆さん、企業の皆さんからのご協力もいただけます。家電量販店のノジマさん、そして携帯電話のNTTドコモさんの市内の全ての店舗でウェブの予約方法の相談を受けていただくことになりました。ITの操作に強いスタッフがそろっておりますので大変ありがたいことだと期待しております。このように公民連携で最大限の支援をしてウェブ予約がスムーズに進むように準備しておりますので、ぜひ75歳以上の市民の皆さんは接種券をお持ちになって、ご活用をお願いしたいというふうに呼び掛けさせていただきます。

もう一つ報告していかなければなりません。26日から集団接種が始まったわけですが、26日、27日の二日間にわたり、集団接種会場においてワクチンが廃棄されるという事案が発生いたしました。集団接種会場でワクチンが余った場合の対応が徹底されていなかったために発生したことです。これも改善していかなければなりません。そこで、ワクチンが余ったときに速やかにどなたかにそれが活用されるような仕組みを構築していくということを今週末までに整理していきたいというふうに思っております。

以上、三つの課題を克服するべくワクチンの接種事業がスムーズに7月末までに完了するように全力で取り組んでまいりますので、どうぞ報道の方、よろしくお願い申し上げます。私からは以上です。

#### ◆司会

それでは、ただ今の案件につきまして皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん、お願いします。

#### ◆NHK

NHKです。まず発表について、予約でストレスがたまらないように改善を図ると、この4番目のスライドの説明でおっしゃいましたが、それがこの5番目のワクチン予約支援事業なのか、それともコールセンターを増設するのか、どうなのでしょう。

◆市長

コールセンターの増設も先ほど申し上げたとおりしております。ただ、やっぱりウェブ予約が6割ですので、そのところはもう少し丁寧に支援の施策を増やしたというふうなことであります。

◆NHK

あと、予約支援で民間企業、つまりノジマとNTTドコモでは今日から店員さんに言えば支援してくれるという体制で。

◆市長

これ今日からですか。いつからですか。

◆司会

すみません、こちらのほうで説明をお願いします。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。今日から支援していただくということで聞いております。

◆NHK

これは店員さんに申し出ればいいんですね。

◆保健所統括監

そういう形で結構です。ただし、接種券が届いている方ということになりますので、接種券が届いている方で支援が必要である方はお申し出いただければと思います。

◆NHK

分かりました。あと市長、集団接種会場のワクチン廃棄について、意図的におっしゃらなかったのか、本数やその理由を今おっしゃいませんでしたが、説明していただけますか。

◆市長

お願いします。

◆保健所統括監

本数や理由ってということですか。ちょっとお待ちください。

◆NHK

市長は報告を受けてないということでしょうか。

◆市長

本数、19件と伺っております。

◆NHK

19バイアルという意味で。

◆市長

19シリンジですね。

◆NHK

バイアルですね。

◆市長

そうですね。

◆NHK

その理由は。

◆司会

すみません、少しお待ちください。

◆保健所統括監

19シリンジです。19人分ということです。これは当日のキャンセルが出たというところになります。キャンセルが出たものにつきましても穴埋めといたしますか、打てるところにつきましては調整を図ったのですが、それでもこの分につきましては埋まらずに廃棄に至ったという状況になります。

◆NHK

確認ですが、19バイアル瓶ではなくて、注射器に瓶から抜き取った19人分ですね。

◆保健所統括監

そうです。希釈を終えてすでにシリンジに入れて、打つ直前の状態になったものが19ということです。

◆NHK

前回の会見ではそういった突然なキャンセルがあった場合には、消防士さんですとか市民の理解が得られる方に接種するという話をされていたと思いますが、どうして穴埋めができなかったのかご説明いただけますか。

◆保健所統括監

消防士さんも想定ではあったのですが、恐らく消防士さんはかなりの方がすでに受けていらっしゃるというのがございます。それで、保健師がこういったコロナ関係の事業にも携わるものですから、保健師も予定していたのですが、そこでも十分に埋まらなかったというところがございます。

◆NHK

先週金曜日の静岡医師会での説明会で、個別接種の会場になる診療所のほうで受け取ったワクチンを使い切れないと判断した場合は、その場で市に送り返して集団接種に活用してもらおうという話だったと思います。それで返却が相次いだためにオーバーフローしてしまったということがあるのでしょうか。

◆保健所統括監

そういうことではございません。診療所のほうにつきましては、各診療所で実際の予約数に沿ったバイアル数を受け取っていただき、それで余った分といいますか、それにつきましてはそのまま城東の保健所のほうでまた戻していただくということになっております。今回のものは、それで困ったということではなく、集団接種会場のほうのそもそものバイアル数は市のほうで調整がききますので、必要数、予約数に見合った必要数を用意させていただいたのですが、それでも当日のキャンセル等がありまして、使えなかったワクチンがあったということでございます。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。では改めて市長に伺います。先週金曜日の静岡医師会さんの説明会で福地会長から非常に強いご発言がありました。そちらにいらっしゃる松田統括監の前でおっしゃいました。読み上げます。「静岡市は細かい連絡、相談なく勝手に進めてほぼ決まった内容で協議の場に臨んでくるので、医師会としてはその都度、修正対応を要望するという、後手後手の対応に終始せざるを得ず、われわれは相当ストレスのたまる交渉を続けました。」先生方、ドクターたちですね、「ドクター、事務職員の皆さまの方がはるかに困惑し、増えた精神的、肉体的負担で疲弊されたことと思う」と、静岡市がワクチン接種のパートナーとされている医師会からこのような発言が出た理由を市長はどのように認識されていますでしょうか。

◆市長

私自身、福地会長とは適宜電話でコミュニケーションを取っておりますが、その場でそういう発言をされたことを大変残念に思っております。しかしながら、これは連携していかなければいけませんので、同じ方向性を向いて、さらにコミュニケーションを円滑にして、現場の開業医の皆さんの負担というものを最小限にしていくべく努力をしたいと思っております。

◆NHK

発言が残念だとおっしゃいましたが、つまり福地会長の発言が適当ではない、市の問題はないということでしょうか。

◆市長

そういうことではないですし、もちろんあったのだろうというふうに思います。それは走りながら考えているというのが市も医師会も一緒でしょうし、そののところ、私どもにもこれからそれを反省して改善するということが必要だというふうに理解していません。

◆NHK

事務方の方にはいろいろ伺いましたが、反省というのは、市は何が悪かったということを確認されているのでしょうか。

◆市長

コミュニケーションの欠如じゃないでしょうか。

◆NHK

コミュニケーションの欠如というと、医師会もコミュニケーションは図らなかったという、お互いに悪かったと言っているかのようにも聞こえるのですが、これはそういう問題だというのが市長の認識ですか。

◆市長

いや、医師会のほうのコミュニケーションの度合いが正副会長、あるいは開業医の皆さんとどのようにされているかは、私は承知しておりません。しかし、医師会と行政のコミュニケーションというのはもっと円滑になっていかなければいけないというふうに理解しています。

◆NHK

お互いの問題だと考えているのか、市側の問題だと考えているのか、いかがでしょうか。

◆市長

私の責任においては、市側の問題を反省しなければいけないというふうに思っています。

◆NHK

では、市はどうするべきだったとお考えでしょうか。

◆市長

私も今日の午後にでも、もう一度福地会長に、今日こういう質問をされたということを受けてコミュニケーションを図りたいと思います。

◆NHK

つまり市長は、福地会長が何に憤っておられるのか認識しておられないということですかね。

◆市長

いえいえ。先ほど読み上げていただきましたし、その報告は保健福祉長寿局からも受けています。

◆NHK

つまり何が問題だったと認識されていますか。何が悪かったかご承知でしょうか。ワクチンが余ってしまうと、市の計画通りに送ってこられては使い切れないという非常に矛盾した状況があって、その余ったワクチンを無駄にしないためにドクターも事務職員の方も今、必死に代わりの接種者を探しているという状況が生まれているんですよ。どうしてこんな状況が生まれたとお考えでしょうか。

◆市長

それはやっぱり予約が埋まらなかったということが前提としてあるのだろうと思います。ですが、先ほど申し上げました通り、走りながら考えております。そういう問題が出てきたということを受けて、連携してどういうふうに改善できるかと。ご存じの通り、清水の医師会では自主的な取り組みが始まっていて、大変助けをもらっております。ある医師会の役員の方が、そのあたりの融通を利かせるために、全て余ったワクチンを集約して、融通してもらっているという医師会の中での動きが清水で始まっていて、私たちは大変ありがたいなというふうに思っております。例えば、こういうシステムが静



岡のほうでもできるのかできないのか、静岡市がそのアシストをできるのかできないか、そんなことを目下目下で検討しております。

◆NHK

私、他の医師会の先生方からもいろいろメールをいただいております、静岡市は職能団体の静岡医師会を甘く見過ぎていると。行政のトップである田辺さんの責任だと非常に憤りの声、市長もご自身で開業医の先生方にお聞きになったらいいかと思いますが、「静岡市は事前に連絡、相談なく勝手に決めて、ほぼ決まった内容で協議の場に臨んでくるので修正対応を要望するという対応に終始せざるを得ない」と、この、静岡市が途中経過を明らかにせず、事前に合意形成を図らず、ブラックボックスで決まったことだけを発表して反発を受けるというのは、新庁舎の移転問題、桜ヶ丘病院の移転問題、アリーナ、海洋文化施設、これも田辺市政の象徴じゃないでしょうか。

◆市長

そんなふうには思っておりません。今回のことについても、開業医の先生たくさんいらっしゃいますので、どなたがそんなことをおっしゃっているのか、私は存じ上げませんが、少なくとも医師会の会長の皆さんとは機関決定をしつつ、このように協力していただいているというふうに理解しておりますし、私自身の気持ちを言えば、全国の自治体の中でも静岡市は大変医師会の皆さんにご協力をいただいていると感謝しております。

◆NHK

では、途中段階で連絡、相談なく決まった内容だけを協議の場に持ってくるというこの福地会長の批判は的を射ていないということでしょうか。

◆市長

それが今日、改めて記者から質問されましたので、それを真摯に受け止めていきたいと思っています。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。確認ですけれども、まずご説明いただいた会場の確保のところ、集団接種会場の、民間施設2施設あって、設置可能レーン数が15から20程度ということですが、これは合わせて、何人分ぐらいのということになるのでしょうか。

◆市長

お答えください。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。この規模数につきましては65歳以上の方は7月末までに打ち終えるために、今15万回分を前倒しするという想定になっております。ですので、人数としては7万5,000人分を7月末までに前倒しするために必要なレーン数ということでこういう数字を出させていただいています。以上です。

◆静岡新聞

そうすると1日当たり何人接種できるような数字になるのでしょうか。

◆保健所統括監

期間が6月20日から7月31日までの6週間42時間ですので、これは単純計算をしますと、15万回を42で割ると約3,500回というような数字になります。

◆静岡新聞

ありがとうございます。あと、すいません、コールセンターですけれども、5月10日というか、始まったところ、85歳以上のところで非常にパンクしたということですが、また、75歳から84歳の方が予約が始まるかと思うのですが、そこでは新たにコールセンターのほうは増やしたりということはあるのでしょうか。

◆保健所統括監

コールセンターにつきましても、事業者を通じて増設ができないか、回線の増ができないかということで協議はさせていただいているところですが、全国的にやはりコールセンターに非常に集中するということがございます。NTT自身も回線を制限しているというような状況がございます。ですので、現段階でいつから回線数を増やすというのを、まだそういうような具体的な状態には至っていないということになります。

◆静岡新聞

あと最後にすいません、打ち手の確保のところ、看護協会であるとか、歯科医師会も

ご協力をということですが、国のほうで例えば救急救命士とかその他の職種の方に対してもご協力をという話があるんですが、さらに打ち手の要請を拡大していくようなお考えはありますでしょうか。

◆市長

本当に国のほうも今必死ですよ。ワクチン接種事業に懸けているということで、次から次へと施策を打ち出しているということです。私も新聞で承知をしました。市長会を通じてという公的なチャンネルではありません。ですが、そういう方針を打ち出したということです。われわれもその想定の中には入れていきたいというふうに思っています。しかしながら、潜在看護師さん、歯科医師さんに今、お願いしている最中ですので、そこに敬意を表して今、打ち手の確保数を見ているというところであります。

◆司会

その他、この案件につきまして。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。こちらもちょうど確認ですが、先ほど1日3,500回、7万5,000人分であったのですが、これは2回以上で3,500人分ってことですか。

◆保健所統括監

そうです。2回以上合わせてということですよ。

◆中日新聞

分かりました。あと、今までというか、この前の会見だと、大規模集団接種会場を今のところ1カ所、1日3,500人分打てる会場を設置するというお話があったと思うのですが、今回の資料を見ると、集団接種会場、今までと同じようなものを増設するというふうに書いてあるのですが、これは何か変わったということですか。もし変わったのであればその経緯を教えていただけたらと思います。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。集団接種会場は既存の会場と比べまして、今回この前倒しをするために設営する会場というのは、大規模というような形を想定しております。ただし、それが1カ所でいいのかというところは、詳細を詰めている途中ですので、現在の想定では2カ所程度必要だろうというようなところで考えています。

◆中日新聞

今回のこの民間施設A、Bというのは、前におっしゃっていた大規模集団接種会場と同じという意味でいいんですかね。

◆保健所統括監

そういうふうに捉えていただいて結構です。

◆中日新聞

それが前は1カ所で3,500人分とおっしゃっていたのが、2カ所に分散して、そこで3,500人分ということですかね。

◆保健所統括監

現時点での考え方としては、2カ所程度はやはり設営する必要があるだろうというふうに考えています。

◆中日新聞

分かりました。あと、ワクチン接種予約支援事業についてですが、これは要するにどこかの会場、区役所とか民間の施設に行けば予約させてもらえるということになるんですかね。あと、この市政出前講座の「予約し隊」は、屋内屋外問わずということは極端に言えば、人の家とかどんな場所でも可能ということですか。

◆市長

これは市民局から答えてもらいましょうか。

◆司会

少しお待ちください。

◆市民局次長

市民局次長の草分でございます。会場はお客様のほうでご用意いただくというのが前提ですので、ご要望のあるところにお伺いさせていただくことを考えております。

◆中日新聞

人の自宅とかでも大丈夫。

◆草分

そうですね。基本的には10人ぐらいお集まりいただいたところへというふうにしてお

りますので、あまり密にならない状態を確保していただければお伺いさせていただきます。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。あと1点だけ。巡回接種の予定が決まっていると思うのですが、予定を見ると、2回目の接種が8月中旬に入ると思うのですが、今まで高齢者接種は7月末までという目標を掲げていると思うのですが、巡回接種の中山間地の高齢者の方は除外して7月末までに終わらせたいという、そういう方針ですか。

◆市長

そうですね。これも、先方も非常に人間ドック等々で繁忙期だと伺っておりますが、私どもとしては粘っております。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆保健所統括監

補足をさせていただきます。山間地の巡回接種につきましては、もともと静岡市が個別接種、集団接種に加えて山間地があるということで、巡回接種を行うということでかなり前の段階から調整させていただきました。地元の自治会長さんと調整する中で、会場の確保も含めて、日程は当初、7月に1回目を打って、8月に2回目というような形で準備を進めてきているところでございます。その後、65歳以上の方を7月末までに前倒しという話が出てきておりますので、この件につきましても前倒しが可能かどうか、また協議調整をしていきたいと思っております。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。ウェブ予約に関して、市でウェブ予約のこういうところがやりづらいみたいな改善点、どのぐらい把握していらっしゃるのでしょうか。例えばタクシーの。

◆市長

そうなんですよね。らくタクにいかないんですよね、あれ。順次報告は受けています。われわれもこれ乗り出さないといけないと、公的な事業としないといけないというのは、自治会の有志の方々が市議のアシストでやったというのが大変好評だったと中日さんもコラムに書いてくださった通りで大変喜ばれております。市議からもそのあたり、実際やってみるといろいろ使い勝手が悪いよという指摘はいただいておりますので、それは私なりに理解しておりますし、それを現課のほうに今、改善の指示をしているところであります。

◆中日新聞

ちょっとこの場で申し上げにくいかもしれませんが、具体例、どのようなものが上がっているか。

◆市長

まず、らくタクをね、やっぱり一番私は使ってもらいたいと思って。あの事業も2億円の予算準備して、少しでも高齢者の皆さんにスムーズに会場に行ってもらうように、あるいは非常にタクシー業界が今、苦しんでいるという状況がありますので、ウィンウィンの形になるように、このような制度を作りましたので、その利用がウェブだとしづらいという状況は非常に残念ですので、そこら辺のところは改善しなければいけないなというふうに思っております。他に具体的に何か補足があったらお願いします。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。システムの関係でなかなか分かりづらい、入力方法が、その案内が少し親切ではないというようなお声は頂いておりますし、実際、自分が入力してもそういうところは感じるころはございますので、そちらにつきましてはやはり改善すべきところはなるべく早く改善するという事で業者と話をさせていただいております。

◆中日新聞

なるべく早くと言いますと。

◆保健所統括監

そこは業者と話をしておりますので、改善すべきところは改善していくという形になります。

◆中日新聞

時期がだいたい6月のいつ頃になりそうとか、そのあたり分かりますか。

◆保健所統括監

すぐに対応できるところは随時対応させていただいております。

◆中日新聞

もう対応されて改善した例というのはあるのでしょうか。

◆保健所統括監

一つは大きな話ですが、今回の私どもが使っている予約システムは1回目と2回目というのが、ある意味自由度が高いといいますが、そういうような形で1回目を接種予約して、案内では書いてございますけれど、3週間後の同じ曜日の同じ医療機関を予約してくださいという案内をさせていただいておりますが、実際にはそうなっていないケース、要は間隔が本来の間隔でないようなケースが見受けられます。ですので、そちらにつきましては結局、個別の医療機関のほうに非常に負担がかかる。同じサイクルで受けていただければきちんとワクチンを用意できるのですが、そこがばらばらしてしまいますと、非常に、特に個別の医療機関のほうに負担がかかる場合がございますので、1回目の予約だけをしていただくようなシステムといいますが、2回目の予約をクローズさせていただいて、1回目の予約で、2回目の予約につきましては1回目を接種された医療機関のほうで2回目の日程をご案内するような形で運用を変えていきたいと思っています。

◆司会

その他、本案件でいかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆SBS

すいません、SBSです。ワクチン接種予約支援事業について伺います。民間企業による支援ということで、要は事前申し込みということですがけれども、各店舗にそれぞれ接種予約券を持っている方が電話して時間を確認して伺うという形になるのですか。

◆市長

ノジマさんとNTTドコモさんの件ですね。はい、お願いします。

◆司会

少しお待ちください。

◆市長

これ営業中ですので、あまり大きく報道すると、まずは公的にやっていきます。行政が関わる中でやっていきます、プラスアルファの部分ですので、あまり各店舗にご迷惑をお掛けするというのも忍びないですので、そこら辺のところ、ご配慮をお願いしたいなと思いますけれども。はい、お願いします。

◆ワクチン接種推進本部

ワクチン接種推進本部の荒田です。今回、NTTドコモさんが市内全店舗 11 店舗でこの相談窓口を開催してくれています。参加無料ということで事前に各店舗にご連絡していただきまして、それで申し込みをしていただいて、その後、また、各店舗さんと直接やり取りしていただくということです。

◆SBS

すいません、もう一つ。集団接種会場で 19 人分廃棄があったといいますけれども、今日までに分かっている数で 19 人分ってどこの会場というのは具体的に、もしあれば教えてください。

◆市長

全ての集団会場のトータルであります。二日間ですね。

◆SBS

分かりました。

◆市長

なので、本当にこのキャンセル待ちリストをきちっと準備しておいて、そういうことがあったらスムーズにそっちに移管するように、あるいは先ほどの医師会とわれわれの個別接種の会場と集団接種の会場の情報の共有化、これを早急にしていかないといけないと、こういうふうに関今、改善を指示しているところであります。

◆SBS

ごめんなさい、もう一つだけすいません。大規模接種会場として候補が上がっていたり、各マスコミで、ここだっていうのもありますけれども、A、Bいろいろありますけれども、市長としては利便性であったりとか、どこを具体的に検討しているとか、もし、現時点であれば。



◆市長

とにかく駅の近くを検討しております。駅の北口と南口、駿河区になりますけれども、その利便性のいい場所をターゲットにして今、交渉中であります。

◆SBS

ありがとうございました。

◆司会

その他、ワクチン関係でいかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞です。よろしくお願いします。高齢者の7月末までに接種を完了するという前倒し案について、それができるかできないかというのは、これは接種券の発送前に発表されることでしょうか、それともスタートして、最終的に間に合うかどうかということになるのでしょうか。お願いします。

◆市長

その前提として、この前も私申し上げましたけれども、私どもは、1カ月ぐらい前は全国市長会を通じて、「現場を見てくださいよ。これはできないことが多いですよ」ということを要請していたんですね。しかしながら、政府のほうが菅総理の肝いりで、「とにかくやってくれ」と、「7月中に1日100万回という形を取ってくれ」という強い自治体への要請でしたので、私どもも集団接種会場を二つ増設して、それに対応するように前倒しの対応をしているわけでありまして。ですので、とにかくそれを目標にして今、最大限の努力をしておるといった状況を、ぜひご理解いただきたいと思っております。

◆読売新聞

ありがとうございます。完了するかどうかというのは、始めてからそれ以降に分かることとなる、スタートの時期としてはこの6月11日発送というのは、こちらはもう固まっているんですかね。

◆市長

今、理論上、計算上はこれだけ前倒しをして接種会場と打ち手を確保すれば、そして、市民の皆さんがきちっと予約をしてくれればという諸条件がそろったら完了できるという計算上の理論はできています。

◆読売新聞

スタートの6月11日に発送するというのは、こちらはまだ動き得るのでしょうか。

◆市長

そのあたりお願いします。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田です。6月11日に発送するというのは、ほぼこの形で想定しております。というのは6月20日から実際に集団接種会場の増設の部分でスタートすることになると、当然その1週間、あるいは10日前には予約のシステムのほうも動き出さなければならないということになりますので、そういう意味でいいますと6月11日というのは、今、業者とも調整していますが、ほぼ、この日程ぐらいで発送にかかるという予定でございます。

◆読売新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、本案件でご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それではその他ご質問があればお受けしたいと思います。第一テレビさん、お願いします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。すいません、前回の会見でも伺ったのですが、県知事選挙についてですけれども、市長は今月、自民党の静岡支部の大会に出席されて岩井さんにエールを送られているということで、改めて今日、こういう会見の立場ではありますけれども、市民の関心も高いので、知事選でのご自身の態度、岩井さんを支持されるのかどうかというのを伺えますでしょうか。

◆市長

これはこの前説明させていただいた通りでありますけれども、やはり各市町、基礎自治体との連携とすることができる候補者に県知事に就任していただきたいというふうに私は願っております。その点で岩井さんは、都度都度の演説会で、私は市町の首長と連携して県政を進めるんだということをおっしゃっていますので、私は心強く思っているところであります。

◆静岡第一テレビ

追加で、そういう思いはたぶんこの4年間の県と市の関係からみて判断されたと思うんですけれど、田辺市長から見てこの4年の川勝知事への評価というのを伺えますでしょうか。

◆市長

川勝知事は大変博学であります。知識も多い、頭のいい方だというふうに評価しております。ただし、自分の正しさを主張し過ぎると。むしろさまざまな交渉があるわけで、相手の立場の主張にも耳を傾けていただきたかった、これは静岡市だけではありません。自分の正しさや正義だけでは、正しさというのは立場によって何通りもありますのでね。そういう意味ではもう少し、例えば、静岡市に引きつけていうと、静岡市が現場を持っている立場として知事に申し上げたいことを申し上げてきたつもりですけれども、なかなか聞いていただけなかった。そんな思いから先ほどの岩井候補に期待したいという判断をしております。

◆静岡第一テレビ

すいません、もう1件だけ追加ですけれども、川勝知事は今週の政策発表の会見の中で、政令市のある、要するに静岡県と県庁がある政令市との関係が難しい。例えば、愛知県と名古屋市の関係がこじれているなんていう例を挙げながら、その関係は非常に難しいんだというお話をされていましたが、田辺市長は県庁所在地がある、県と政令市との関係、静岡でいうと静岡県と静岡市の関係はどういう関係であるのが理想だとお考えですか。

◆市長

やはりもうすでに市の職員と県の職員、実務ではどの案件でも共通のプラットフォームで連携しています。プラス、トップ同士もそれにできる個人的な関係ができないと都道府県制度と政令指定都市制度というのは歴史的な経緯が違いますので、法的にどっちの権限下と位置付けられていないことも多いんですね。ですので、やはり個人的な関係がいい政令市と県との関係のところと、そうでないところではずいぶん違いがあります。ですので、私はそういうトップ同士の連携ができる体制というのをこれからも、どなたが県知事になっても構築していきたいなというふうに思っております。前回、私、そんな思いで2年前に当選させていただいた、当選証書をもらったその直後に県知事のところに行きまして、選挙ではいろいろあったけれども連携したいと、未来志向で、ラグビーのワールドカップもその年にあったから、ノーサイドでいきましょうというふうにお願ひに行っただけなんですけれども、残念ながら聞き入れてもらえなかったということがあります。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

それでは 45 分を過ぎておりますので、ここで終了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。すみません、45 分を過ぎておりますので、ここで終了させていただきたいと思います。次回の記者会見は 6 月 4 日、来週の金曜日になりますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。